

令和6年度第1回たちばな支援学校学校運営協議会

令和6年度 第1回 令和6年6月10日(月)

出席者:委員9名、傍聴人6名

議題

- ①会長及び副会長の選出
- ②学校概要説明
- ③学校経営方針説明及び協議
- ④意見交換

協議した内容

- ① 会長 金川宏氏(有田市教育委員会学習支援員)
副会長 山口育子氏(社会福祉法人有田ひまわり福社会理事長)
- ② 学校概要説明(校長より)
開校からの児童生徒数の変化、学校教育目標、進路状況、センター的役割等について説明
・少子化の中、本校では児童生徒数が増加しており、教育環境の整備が必要。
・『未来に希望の花を咲かせよう(30周年のテーマより)』
花を咲かせるためには、様々な力が育つための教育活動を行っていくことが重要。
・進路状況説明・・・入学時から卒業後を見据えて各学部で必要となる力を育てていく。
・GIGAスクール構想・・・ICT機器を授業で活用していくには研修も必要となってくる。
- ③ 学校経営方針説明(校長より)
資料『令和6年度学校経営方針』及び『令和6年度学校経営ビジョン』をもとに説明
・ここ数年の教員の入れ替わりが大きく若手教員、特別支援の経験のない教員の割合が増えている。
人材育成を基盤となる取組の一つとし、研修の充実を図っていきたい。
・児童生徒への指導の基盤となるのは、障害からくる困難さに対応する『自立活動』と押さえ、全校研修で重点的に取り組んでいく。
・働き方改革についても重点の一つとし、ICTの活用など具体的方策をとり、授業づくりに時間をかけられるようにしていく。また、働く時間の短縮を進め、ライフワークバランスをさらに推進し、働く活力につなげたい。
・人権意識の向上について、呼称のあり方を例に挙げ、本校の課題について説明した。個性や多様性を認めていくことが求められているなか、改善に向けて取り組んでいく。

協議

- (委員)先生の力量の差を縮めるため、学校現場ではこういった取組をしているのか?
→経験年数や力量などの差はどうしてもあるので、複数で指導している中で、担当の組み合わせを工夫し、日々の実践の中で学べるように考えている(OJT)。
- (委員)人権に関わって。作業所の利用者さんがこれまでの呼び方が変わると受け入れられず、仕事に支障をきたすこともある。社会に出るまでに、「～さん」といった呼び方に慣れたり、柔軟に対応できる力を養ったりすることの大切さを感じている。

(委員) 仕事をする場面では、様々なハラスメントがあるが、そもそも『ハラスメント』とは何なのか？
を知らない場合がある。高校生の間に、そうした学習をしておくことでスムーズに社会生活に移行できるのではないかな。

(校長) 地域との連携について、たちばな応援団の趣旨を説明(チラシ参照)

- ・実習先や進路先を広げていく。
- ・ゲストティーチャーとして、授業に参画していただく。

コミュニケーションの幅を広げていくことにつながると考えている。

(委員) 卒業生は現場で仕事をがんばってくれているが、体力が足りないと感じる。高校の間に身体作りをしておくことの重要性を感じる。精神的な成長にも関係してくると思われる。また、最近、新卒の社会人について“甘やかされてきている”と感じることが多い。仕事上の注意が、叱られたと受け取られることがある。そうした面で、社会で通用するような人の育成が大切である。

(委員) 新卒の就労支援をしていると、コロナの影響もあると思われるが、おとなしい人が多くコミュニケーション能力の弱さを感じる。企業側とすると、毎日元気に出勤してくれる人を求めているので、それを踏まえた指導が必要になってくる。

高等部の授業に呼ばれて話をする機会があるが、伝えていることは『時間を守る』『規則正しい生活をする』『コミュニケーションをとる。友達と話をしてほしい』といった基本的なことである。

(育成会長) これまでの話を聞いて、我が子はコミュニケーションはとれるが、『知らない人に話しかけられるのが怖い』といった課題がある。少しずつ改善されてきているので、これからいろいろ取り組んでいきたい。

(校長) 保護者が、子どもに対して課題に思うことがあれば、「つなぎ愛シート」を活用したり、家庭訪問で伝えたりしていただいて、授業の中でどう取り組んでいくのか、一緒に考えていきたい。

(委員) 子どもさんの課題や悩みを相談しやすい、伝えやすい先生を育ててほしい。言いづらい思いをしている保護者がいると思って対応していただきたい。

学校経営方針の承認について

提案どおり承認された。

④ 意見交換

(委員) 叱られたら、そこで終わりと受け止めるようなストレス耐性のない若者が増えたと感じている。
これからの社会はどうなっていくのかという心配もある。

(小学部主事) いろいろな立場の人からの意見を聞くことができ新鮮で新たな示唆をいただいた。学部
の先生たちにも伝えていきたい。

(教頭) これまでの話を聞き、若手教員の実態が変わってきていることを実感した。また、昨年まで小学部にいたが、教頭という立場で学校全体を見ると、見え方が違ってくる。

(教頭) 人権意識や体力、コミュニケーション、気持ちの切り替え、打たれ強さなど、社会で通用するようにと教育してはいるものの、就労に関わる方からの声を聞かせていただいて不十分さを実感した。

(事務長) 特別支援学校で3年目となり、小学部から高等部まで12年間の成長を見られることに喜びを感じている。先生たちは時間がない中で一生懸命生徒に向き合っている。これからもともに協力していきたい。

